



なかすじっ子

2019年
5月29日

No.5

文責：陸野

5月の生活目標：規律正しい生活をしよう！

四万十市5校連合小学校 修学旅行道中記 その1



今回から5回にわたって、「修学旅行道中記」を連載します。修学旅行の一端を味わっていただければと思います。では、はじめは始まり。

【1日目】

22日（水）、天気は晴れ。少し肌寒いくらい。一昨日までは天候が不順だったが、修学旅行期間中は、上々の天気の前報。日中は暑いくらいに。とにかく天気の心配がないことに感謝感謝の朝だった。

集合場所はサンリバー四万十。次々に車から降りて集まってくる子どもたち。学校が異なるということもあるせいか、少し緊張した面持ちの子どもが多かった。

5分前には全員が集合。6時30分から出発式を行った。

児童代表の心優さんが次のように話した。

「今日から3日間、5校連合で修学旅行に行きます。修学旅行では、実際に見聞きし、新しいこと学び、たくさんの友だちをつくりましょう。それから、上手なお金の使い方を学び、楽しい思い出をつくりましょう。私は、野球を始めて見るのでとても楽しみです。そして、みんなでホテルに泊まって過ごすのも楽しみです。楽しく過ごすために、ルールを守り、他の人に迷惑をかけないようにしましょう。見送りに来てくれたお家の人や先生方、ありがとうございます。



今から元気に出発します。3日間留守にするけれど、元気に過ごすので心配しないでください。帰ってきたら思い出話をたくさんするので、楽しみにしててください。では、みんなで行ってきますを言いましょう。礼、行ってきます！！」

続いて、団長の私から、大切にしてほしいことを3つ話した。

- 気持ちのよい言葉をたくさん使いましょう。「よろしくお願いします」「ありがとうございました」「はい」「わかりました」「いいね」「すごいね」「大丈夫」…。きっと、楽しく旅行ができると思います。
- 人の話をきちんと聴きましょう。バスの中や見学地でのガイドさんの話、案内の方々の話、班で集合しての先生の話など、静かにじっくりと話を聴きましょう。びっくりしたり、感動したりする話もあります。そのときは、心を動かしながら聴きましょう。



●友だちの良いところをたくさん見つけましょう。バスの中で、見学地で、ホテルの中でなど、集団で行動する中で、友だちの良いところ、感心なところをたくさん発見し、友だちを見つめ直し、しっかりつながりましょう。

この3つのことを大切にして、最高の思い出となる修学旅行にしましょう。

出発式の間、子どもたちはしっかりと話し手を見つめながら、話が聴けていた。

今回、旅のお世話をしてくださったのは次の方たち。

◆バスガイドさん：下西鉄子さん ◆運転手さん：武田雅博さん（四万十交通）

◆添乗員さん：中東賢一さん（四万十トラベル）

たくさんのお見送りの人たちに手を振って、総勢29名の修学旅行団の出発となった。



ガイドさんと行程を確認。たくさんのお楽しみと一緒に、大切な平和学習でしっかり学びましょうと話してくださった。

バスの中で、改めて自己紹介をしていった。子どもたちは、名前と学校名、住んでいる所などを話した。その後、ビンゴゲーム。最初は緊張していた子どもたちも、次第にリラックスしていった。松山港までの道中は、ガイドさんが説明をしつつ、質問をしつつ、進んでいった。とにかく、松山城が見えると松山城にまつわる話…、など、次々に話が飛び出してきて、下西ワールドに引き込まれていった。



フェリーに乗り込み出港。子どもたちからは「おなかですいた」。朝食が早かったから無理もない。ちょっと早かったが、11時10分ごろ昼食にした。イスに座り、みんなが楽しそうに話しながらお弁当を頬張っていた。その後、トランプをするなど、思い思いに過ごしていた。他のお客さんも多数乗っていたが、迷惑をかける子は一人もいなかった。



広島・呉港へ上陸。大和ミュージアムへ。2つの班に分かれ、ボランティアガイドさんに館内を案内していただいた。全長23.6mもある10分の1の戦艦大和の模型の前で、子どもたちは話を一生懸命聴き、旅のしおりに次々メモをしていった。神風特攻隊の零式艦上戦闘機や人間魚雷「回天」の前で、話に力が入る案内の方。戦争の悲惨さを語る一方で、「大和を作った技術は、戦後の復興で貢献した」と思いを語ってくれた。



隣接する「てつのかじら館」。実際に使われていた潜水艦が展示してある。機械や機器むき出しのその中に入って行った。子どもたちは「すごい!」「風呂、狭っ!」。この中で生活するのはすごくストレスがかかるだろうなあと思った。潜望鏡からはきれいに外の世界を見ることができた。何かほっとした気分になった。



~つづく~